

青森県ビューティー&メディカル専門学校

「学校自己評価について」

R 7 年度

1. 教育理念・目標

現状

●本校は、教育基本法並びに理容師法・美容師法に則り、生徒の個性に応ずる専門教育を施すことはもちろん、技術面においても、最も優れた理容師・美容師・ビューティシャン・薬学と健康のスペシャリストとして、社会的責務の遂行をはかり、公衆衛生の維持増進に寄与し、かつ、人格的にも堅実、有能な人材を養成することを目的としています。

●本校は、令和7年度に創立70周年を迎えた、理容美容とビューティー、お薬の専修学校です。長い歴史の中で、県内外に一万人以上の卒業生を送り出し、卒業生は業界の中心となり活躍しています。

「勤勉」「誠実」「礼節」という三つの教育方針を掲げ、プロとしての技術や知識を指導するだけでなく、系列サロンの協力を得て実務実習を行うことなどにより、学生一人一人の自立心と向上心を高めることを目的としています。

●近年の特色ある活動としては、日本の理容美容・ビューティーの専修学校で唯一「日本赤十字社」の奉仕団を結成し社会貢献に力を入れており、これにより学生の意欲も高まり、国家試験の合格率が高まり各種の上級検定合格者も増えつつあります。

課題と改善点

●現在、本校の入学生は、弘前市周辺から25.7%、五所川原市周辺から14.6%、三八上北下北から4.9%、青森市内から54.8%の入学者がいます。

昨今の景気低迷と少子化の影響で、入学者数は年々減少しており、青森県内の理美容専修学校進学希望者約130名を競合する八戸と弘前の学校三校で分けている状況です。

他校との差別化を明確に表すためにも特色のある教育を行うため全科「職業実践専門課程」の認可となり企業等との連携授業を実施している。

●学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者への周知については、まだ不十分であるのが今後の課題です。

2. 学校運営

現状

- 運営方針・事業計画は校長がこれを作成し、これを教務会議・学年会議を通して、周知徹底している。
- 学校運営組織は、校長をトップに本部長、副校長、課長、各科長がこれを補佐する形で運営されている。
- 人事、給与については就業規則並びに諸規定によって規定されている。
- 教務については副校長の採用で指揮系統が整備された。
財務については、理事会を中心に随時話し合われており状況に敏感に反応できている。
- 学校運営においては校長がこれを行うが、学校経営は理事会が行い、トップは選挙で選ばれた理事長である。理事及び理事長には任期もあり、比較的長期的な経営体制で運営されている。

課題と改善点

- 教育活動に関することについては、本校のホームページなどにより情報公開して一層の充実をはかり改善したい。

3. 教育活動

現状

- 学校委員会（教育課程編成委員会）があり、この委員会が業界のニーズに合った、学校行事やカリキュラム、教科科目の見直しなどを行っている。
- 青森県内の理容美容室及びビューティー関係や医療施設、ドラッグストア、結婚式場等の経営者が学生指導のバックアップをしてくれており、学校内の授業だけでなく美容室の現場に行き、学習する実務実習（インターンシップ）を行い、より実践的な教育を行っている。
- 授業評価については、3学期制を行っており、学期ごとに各教科・科目の成績と単位認定をしており、進級・卒業判定は明確に定められている。
- 資格取得については、特に理容師・美容師資格の取得、メディカルビジネス科の登録販売者資格については、これが本校の最大の目的でもあるので、カリキュラム上でも重点科目となっている。また、トータルビューティー科の資格取得についても上級の資格取得を実現するために対策指導を行い、学生の上級資格取得を奨励している。
- 教員の資質向上については、日本理容美容教育センターや東北地区理美容学校教職員協議会が実施する研修会や学習会に積極的に参加を奨励している。

課題と改善点

- 法律上、現状の理容師美容師養成施設において学ばなければならない教科科目と、今の理容師・美容師試験の受験科目が現在の美容業界が求める人材と乖離しており、この点での改善を図りたい。

4. 学習成果

現状

- 近年各科共に高い就職率を維持しており、今後も維持したい。
- 理容科・美容科でもジェルネイルの授業を開始し JNA 初級ジェルネイル検定取得を奨励している。
- 卒業生については校友会が組織され、校友会通信を配信し母校の情報発信と卒業生の動向把握に努めている。

課題と改善点

- 個人面談で話す内容を教員間で事前に検討するようにしてさらに退学者ゼロを目指す。
- 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用については今後の課題である。
- 近年の本校における学生入学者数・卒業者数・退学者数・就職者数

2年制 単位：人

年度	入学者数	卒業者数	退学者数	休学者数	就職者数
元年度生	63	59	4 (6.3%)	0	57
令和2年度生	66	58	8 (12.1%)	0	56
令和3年度生	66	58	8 (12.1%)	0	50
令和4年度生	71	65	6 (8.5%)	0	58
令和5年度生	71	62	8 (11.3%)	0	60
令和6年度生	40	27	13 (32.5%)	0	26
令和7年度生	92	—	—	—	—

3年制（トータルビューティー科エキスパート3年コース） 単位：人

年度	入学者数	卒業者数	退学者数	休学者数	就職者数
令和5年度生	11	8	3 (27.3%)	0	8
令和6年度生	17	—	—	—	—
令和7年度生	16	—	—	—	—

- 近年の本校における国家試験合格率（実技試験・筆記試験）

単位：パーセント

理容科	令和元年度	令和2年度生	令和3年度生	令和4年度生	令和5年度生	令和6年度生
実技	0	100	100	100	100	100
筆記	100	100	100	100	100	50

美容科	令和元年度	令和2年度	令和3年度生	令和4年度生	令和5年度生	令和6年度生
実技	100	100	100	96.3	100	100
筆記	86.2	97.3	95.8	88.9	93.9	80

メディカルビジネス科	令和2年度生	令和3年度生	令和4年度生	令和5年度生	令和6年度生
医薬品登録販売者	100	93	100	100	100

5. 生徒支援

現状

- 進路・就職相談については、担任が窓口になり、本人の希望や業界とのマッチングに努めている。また、校内において就職ガイダンスを実施し、多数の就職先に学校に来校してもらい、直接学生を会わせ就職活動の一助にしている。
また、令和5年度からキャリア支援センターを設置し、個別の進路、職相談、目的別、対象別のセミナーなどの企画実施、求人・進路形式に関する調査や各種支援を行っている。
- 学期ごとに担任教員による個人面談を実施し学生との相談体制を取っている。
- 経済的支援については、日本学生支援機構奨学金制度を活用し支援している。
- 平成25年度に、日本の理容美容系の専修学校では唯一「日本赤十字社」の奉仕団として活動をスタートし生徒の社会貢献活動を行っている。
- 欠席が多い学生や成績の悪い生徒の保護者に連絡し、保護者との面談も実施している。また、その程度によって、担任との面談も行っている。
- 単位未習得の生徒には夏休・冬休・春休の長期休業中、ないしは卒業式後に補講を実施、進級・卒業認定の支援としている。
- 学生の生活支援のため、入学時のアパート斡旋などを積極的に行っている。
- 各階に電子レンジ及び給湯器を設置し、温かい食事を食べられるようにした。
- 青森市内の幼稚園・小学校・中学校及び青森県内の高等学校との連携によりキャリア教育及び職業教育の取り組みを長年行っている。
- 学生の健康状態を把握するため、早期に健康診断（内科検診）、結核検診、聴力検診、身体測定を行っている。
- 青森県や弘前工業研究所の指導を受けながらプロテオグリカン入りの化粧品を学生がプロデュースして製造している。2025年には創立70周年を迎え、記念の化粧品を学生と教員のプロジェクトを立ち上げマルチミルクを製造した。

6. 教育環境

現状

- 施設・設備については今の教育を実施するうえでは充分であり、青森県内の二校に比べても大変充実した設備を誇っている。
- 系列企業や協力企業でのインターンシップを各科で年一回実施している。
- 理容美容科は海外研修旅行をハワイにて実施。自由参加だが3割ほどの学生が参加をし、本年度も実施予定である。
- トータルビューティー科は、エキスパート3年コースが9月に韓国研修を実施予定である。全員が参加している。
- 防災設備は整えており点検も年二回実施している。夜間の火災などでも警備会社との契約で警備会社が駆けつける。防災計画を作成し避難訓練などは年に三回実施している。

7. 学生募集

現状

- 募集要項を毎年作成し、体験入学会や高校でのガイダンスなど募集活動に努めている。
- 説明会やホームページにより、在校生・卒業生の教育成果を正確に伝えるよう努めている。
- 学費は県内の他校と比較して最低の金額に設定、募集要項に記載されている学費以外は極力かからないようにしている。
- 他校には無い、トータルビューティー科エキスパート3年コースを新設し、学生確保に努めている。

課題と改善点

- 学生募集活動は積極的に行っているが、定員に達していない状態が続いている。今後の活動の方法を模索している。

8. 財務

●国家試験高合格率の維持達成、学費の見直し、学生募集活動の見直し等で、徐々に回復する見込みであり、新設したトータルビューティークリエイティブ3年コースの入学者を見込めることから、財務状況は安定に向かっている。

●会計監査は適正に実施している。

課題と改善点

●会計報告は毎年、厚生労働省に報告し、自己評価としてホームページ上にも掲載している。

9. 法令などの遵守

現状

●理容師法・美容師法、専門学校設置基準に基づいて、適正に運営を行っている。個人情報に対しては、十分に注意し、教職員にも指導している。

課題と改善点

●自己評価については引き続き公開をしていく。

10. 社会貢献・地域貢献

現状

●日本の理容美容・ビューティークリエイティブの専修学校で唯一の赤十字奉仕団を結成している。

●学生のボランティア活動については、本校の赤十字奉仕団が計画して行っている他、献血推進活動や歳末助け合い各種募金活動にも学生が積極的に参加活動している。

●本校にて年1回、災害時における炊き出し訓練及び救急救命訓練を実施し、緊急時の社会貢献を積極的に行っている。